

小学校外国語活動で大事にしたいこと

琉球大学教育学部附属小学校 あらかわ 新川 美紀

本校は、外国語活動を全学年ALTとのTT授業で行っている（図1参照）。独自の教材と併せて*Hi, friends!*、NHKテレビ『プレキソ英語』やDVD、絵本等を活用している。専用教室に電子黒板、CD、…と比較的恵まれた環境にある。

学 年	1～2年	3～4年	5～6年
年間時数	15時間	35時間	
授業形態	担任・ALT		専科・ALT

図1：琉球大学教育学部附属小学校の外国語活動

1 はじめに

子どもは学校生活の様々な場面で、自分の考えを伝える活動を通して相手の思いを知る。昨年度までの実践から、外国語活動でも、自分のことが英語で相手に伝わる体験や相手のことがわかる体験の積み重ねが、子どもの「相手意識」を高め、「もっと英語を話せるようになりたい」という意欲を高めていくことが見えてきた。「英語でどう言うのかな」という疑問や自分の伝えたいことがうまく伝わらないときほど、子どもは自分から仲間と話し合おうとし、より積極的に発話し活動する。さらに、知っている英語や他教科等の学びを振り返って関連づけることで理解を深め、自分の考えを伝える活動に積極的になり、徐々に英語を使う楽しさを感じていた。

2 外国語活動に求められていること

今年度、私は2年担任と高学年の英語専科として2足のわらじを履いている。単元構成や授業作りにおける工夫・改善は、担任であれば、日々の学校生活全体を通して子どもを見つめ、他教科等と関連させるのは比較的容易である。反面、専科教員としては授業での姿や毎時間書かせている「振り返りカード」や担任との情報交換というような、担任より

狭い範囲で子どもを理解し、適切に指導しなければならないことに少々不安も抱えている。しかし、どちらの立場にしても、外国語活動を行う上で、他教科等と同じように学習として連続性のある学びや、より一層の子ども理解と子どもの多様性に沿った授業作りの重要性は強く感じている。

3 本校の外国語活動でめざす子どもの姿

わからない表現があっても、これまでの他教科等を含めた学びで得た知識を駆使して意味を類推し、大まかな内容を楽しんだり、理解しようとしたりする姿。物事や仲間と進んでかかわりながら自分の思いや気持ちを伝え合い、何とか英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする子どもの姿をめざしている。

外国語活動において、子どもが類推したり、考えや気持ちを発表したりする授業を想定してみる。子どもは意味を考えながら英語を聞いたり考えを言い、絵や映像から情報を読み取り、次を予測したり考えや気持ちをやりとりから共有する。単元の中で、歌やチャンツを使って聞こえた英語を身体表現したり、果物を動物に替えるなど、他の言葉に替えたりしながらいろいろな英語表現を学ぶ。振り返りを発表するときには自己を分析するなど、実に多くの知能を使うことになる。複数の知能を使う活動を意図的に組み合わせれば、単元や授業のどこかで子どもは「できた!」「わかった!」「なるほど」と感じ、「もっと知りたい」と意欲を高めていくのではないだろうか。

4 本校のカリキュラムと教師の働きかけ

学年を問わず、興味・関心や学習内容理解の程度が子どもは異なる。英語教室に通う子もあり、英検準2級をもっている子もいる。

この様々な内容理解力も鑑み、中学校での英語教育につなげるために、本校6年間のカリキュラムでは、「聞く・話す」活動を中心に子どもの生活に沿った単語や文表現の語彙数を徐々に増やし、場面や語を替えて、繰り返し聞いたり話したりするようにしている。また、相手とたずね合って、互いを知る活動を全学年で設けている。学年が上がるごとに、外国の異文化理解を促す内容や英語で何とか伝えていく活動、あるいはプロジェクト型の活動が増える。外国語活動における教師の働きかけとして、以下の4つのポイントを意識して、各単元の授業を組み立てている。

- ①言語表現の導入や聞かせ方を工夫する。
- ②自分の伝えたいことを英語で何とか伝え合う場面を設定する。
- ③学年の発達段階に応じ、他教科等と関連を図り、日本と外国の言語や文化の共通点や違いを受容・理解していけるようにする。
- ④毎時間の学習形態（個人・ペア・グループ・全体）を工夫し、多面的な見方・考え方から理解を深めていけるようにする。

5 授業の実際

【2学年の授業】

低学年は絵本でも音読でも繰り返しのある表現をととても好む。何度でも口ずさみやりたがるが、集中力はあまり続かない。この特性を活かし、1つの単元の中に5つのトピックを入れ替えながら、ICTで教材を作成し、絵や映像に視覚的に触れ「聞く・話す」活動と同じ基本表現や教材で何度もスパイラルに行った。1学年で学んだ色・形・数・動物を復習しながら、新出表現を追加した。国語のカタカナ表記や生活科の野菜作りの単元と関連をもたせ、興味・関心が最も高い時期に合わせ、観察した花や実を使って、好きな野菜をたずね合う表現まで取り上げた。ほと



んどの子が英語にはトマトのように日本語に似た呼び方をするものと、きゅうりのように全く違うものがあることに気付いた。また授業後に教材園に野菜の花を確認しに行く子どもも多く、外国語活動での学びが他教科の学びにつながった行動だと受け止めている。

【6学年の授業】

Hi, friends! 2のLesson 2に “When is your birthday?” という単元がある。本校では日付を4年生から毎回、Greetingでたずねるので、児童はあまり興味・関心を示さない。そこで独自単元 “When is it?” で When is your birthday? / My birthday is July 2nd. の基本表現を使って、配られたカードに書かれた誕生日の主を探すインタビューをする。見つかるまで何度も表現を発話するだけでなく、終わればクラスの月別誕生日表ができあがる。同じ誕生日の子がいればそれだけで大喜びである。第2時以降では月の呼び名には歴史や神話からの由来があることや日本の旧暦も学ぶ。また日本の行事の英語表現を考え、日付とともにALTに説明することに挑戦する。必ずあると思っていた入学式がALTの国にはないことや、学校の始まる時期や夏休みの長さの違いを知り、子どもからどんどん質問が出る。「他国は？」と興味が広がり、琉球大学の留学生にインタビューしたビデオを見た後には子どもは自然と世界地図に目を向け国語や社会・理科の内容を思い出しながら考え始めた。



6 終わりに

本校の子どもは英語を話せた達成感に加え、新たな疑問が芽生えたとき、主体的に聞くようになり、学びがつながり始めている。そして高学年は英語の理解だけでなく、英語を通して新しい知識が増えていくことに心を躍らせ、授業を楽しんでいるように感じている。